

中津藩と村上玄水

○川 寫眞人

村上玄児・今永正樹

九州の豊前国、中津藩は、前野良沢、福沢諭吉をはじめ多くの医学者、文化人の輩出したことで知られている。この度、御典医、村上家の調査で数多くの古文書や資料が発見され、その多くは未だ未解説であるが、我々の解明できた範囲内で、特に村上玄水に関するものについて報告する。

村上家の出自は、信濃源氏であり、村上天皇第六王子、源良国、浪華太郎を家祖とする。

良国より数代を経て、良氏に至り、豊前仲津郡を領し、数代を経て良成の時に仏門に入って浄喜寺を建立、初代開基となった。浄喜寺三世良慶は顕如上人の直弟子となり、石山合戦には軍功を立てて感状をもらったという。良慶の逞ましい画像は、村上家に残っている。

浄喜寺五世、蓮休の三男、村上良道（宗伯）は、小林見宣に医を学び、寛永十七年（一六四〇年）に、医師開業の免許皆伝を受け、その免許本が村上家に残っている。宗伯は、中津諸町で開業し、中津藩村上家の初代となった。宗伯から、養元、玄水、玄洞、長庵、玄秀を経て七代玄水の時に蘭学医として最も活躍したことがこの度の調査でも判明した。

中津藩奥平家は、天明六年（一七八六年）島津家より養嗣、昌高をむかえ、昌高はシーボルトにも度々会見した蘭学大名としても高名であり、一八二二年、バスタード蘭和辞典を刊行するに至っている。本辞書の下巻もこの度の調査で、村上家で発見されている。

中津藩をあげて、蘭学ブームの時、村上玄水は生長して、蘭学医として活躍する。

玄水は天明元年（一七八一年）は出生、十四、五歳頃は、天文、兵法、砲術を学び、文化三年、広島の蘭医、中井厚沢が中津を訪れた時を機会に医学を学びはじめたという。文化八年（一八一一年）御典医となって三人扶持をもらった。

文政二年（一八一九年）村上玄水は、自らの執刀のもとに

人体解剖を行う。下毛郡誌によれば、中津藩の刑場長浜で囚人（男）の解剖を門下五十余人を率いて行い、中津藩の画員片山東籬と佐久間玉江が写生した。玄水は、この解剖図を解剖図説と題し一冊にまとめ、日出藩の帆足万里が序文を書いている。万里と玄水は親交が厚く、その手紙も村上家にて発見された。解剖図説は序文のみ残して発見されている。玄水の解剖の日から三カ月後に、奥平昌高は逝いている。

村上家の資料の中で解剖当日の状況を記録したものが解臈記である。解剖された受刑者は、「二十一、二歳位の引壯な若者で、無病、ただ直腸に小豆の如きを見る」と述べることが如く、細い観察を行っている。解剖図説の下絵と思われるもの二葉が、村上家で発見されている。本物の絵図は、横山健堂が持ち出して行方不明である。

村上家には高野長英潜伏の話が口伝として残っている。

シーボルト事件、文政十一年（一八二八年）長崎を迫われた長英は、十二年日田に入り、その後、中津藩村上家の土蔵にかくまわれ、玄水が家人に内緒で自ら膳をはこんだという。

長英と玄水の接触が長崎であったのかどうかさだかでないが、村上家に残る蘭文の学問訓は、「書斎、水滴は石をも穿つ」と書かれてある（天児民和先生訳）。まぎれもなく長英の座右銘とした学問訓であり、群馬県の福田宗禎宅に残した「書斎、水滴は、力によらずして、何度も落ちることに、石をも穿つ」と同意義の文である。

村上家には、シーボルトが長崎で治療した験方録である矢以勃児杜經驗集の写本がある。この写本は、玄水が文政十二年に筆写したと書いてあり、ちょうど長英の滞在した時期とも一致するので、長英から借りて写したものであるうか。

玄水が、薬草園を宮永や龍王浜に作って人参や茶を作ったり、中津海岸で最近まで行われていた建干網漁業を創案したり、花火玉の作り方を書いた書類を残したり、その博学で多彩な活動のあとがうかがえる。

天保十四年（一八四三年）玄水は六十三歳で没し、その墓は、中津市内の東林寺にある。

シーボルトともっとも親交の厚かった蘭学大名、奥平昌高の時代に、九州で最も初期と考えられる人体解剖を自ら

の手で行った村上玄水は、今回の調査で様々な資料の中から、その実像が明らかにされてきている。

川島整形外科病院

村上華林堂病院

村上記念病院医家資料館

アルメイダ没後四百年の

足跡を訪ねて

東野利夫

本年十月は、ルイス・デ・アルメイダ Luis de Almeida (一五二五—一五八三) が、九州、天草の河内浦(現熊本県天草郡河浦町一町田)で、没して丁度四百年目に当る。

一五五〇年より彼の日本に於けるイエズス会修道士としての活動、および豊後府内における日本で初めての育児院、洋式病院の創設、運営、診療などについては、彼自身、および当時のイエズス会士たちの通信書簡により、大略は先達歴史学者たちの貴重な研鑽報告がなされている。

しかし彼の医療技術のレベルや内容等においては、史料に乏しく未だに定説が明らかでない。

ルイス・デ・アルメイダは、一五四六年三月三十日付、ポルトガル国王ジョアン三世より全領土における外科施療の免許を得ている。